文芸コーナー

菊水短歌会

満開の桜の白に抱かれて
　わが春ごころゆらりゆうらり　東　左千子

夫と行く山鹿温泉の心地よさ
　腰も治ったと思えるほどに　河野　洋子

母の言う「しあわせです」に涙して
　素直な心にうれしくなりぬ　坂本やすみ

小説を読み進むうち犯人の
　味方している自分に気付く　池田　恭子

新芽いぶきて小鳥よろこぶ庭先に
　雑草勢いて戦はじまる　阪野　章子

寒去りてうす紫の星のはな
　庭の傍にゆれる花韮　野中　慶子

かなしき原俳句会

夏めくや海辺の宿の風清し　しん子

麦秋や玉名平野の風の波　淑乃

廃屋は竹林と化し百千鳥　康子

母恋ふはいつもこの頃豆御飯　弘子

他人ごとのやうな卒寿や花吹雪　淑

闇騒ぎメインストームとなりにけり　誠一

初夏の風静かにかをる由比ガ浜　良一

白藤の香りゆかしき寺の杜　謙三

流れゆく雲の明るき聖五月　貞子

菊水俳句会

遠い山在りかたしかな椎の花　池田　松子

親の年はるかに越えて夕端居　中山ミサト

病室に癒しのひとつ新樹映ゆ　宮中ミスエ

入院の母居らぬ庭実梅生る　宮中　康雄

菖蒲湯やよくぞ男に生まれける　永田　紘彦

青い空赤い実のなるさくらんぼ　原　かよ子

肥後杜句

遊び心　秋には稲穂の絵が出来る　石原かわせみ

遊び心　庭木もねじり格好つけ　池田　茜

遊び心　これがストレス吹きとばす　福永すみれ

あいたしもた　要らんこつ迄きゃァ喋り　瀬上　歌子

あいたしもた　メモ紙までもきゃァ捨てた　後藤　撫子

あいたしもた　姑が先に起きとらす　庄山　道草

うしろ姿　見えんごつなり涙出た　井上りんどう

うしろ姿　老化現象まる出しで　高木せいや

うしろ姿　形見着せたら生き写し　二瀬　桔梗

人権の窓 24

地域人権教育指導員　緒方　正雄

問 中央公民館 ☎86・2022

今年の三月、ある薬局で懐かしい絵本に出会いびっくりしました。なんと、一九七九年、担任した子どもたちと何度も読みあった「詩」が載っていたのです。当時の私は、この蒔田先生の「詩」に感動し、「こんな教室を作ろう」と子どもたちと相談し、学級の目標に掲げていました。いま読み返しても嬉しくなって、わくわくしてしまいます。

「教室はまちがうところだ」　蒔田　晋治

教室はまちがうところだ／みんな どしどし手をあげて／まちがった答えを言おうじゃないか／まちがった意見を言おうじゃないか／まちがうことをおそれちゃいけない／まちがった意見をまわらっちゃいけない／まちがった答えを／ああじゃないかこうじゃないかと／みんなで出しあい 言いあうなかでだ／ほんとうのものを見つけていくのだ／そうしてみんなで伸びていくのだ／いつも正しくまちがいのない／答えをしなくちゃならんと思って／そういうとこだと 思っているから／まちがうことがこわくてこわくて／手もあげないで 小さくなって／だまりこくって 時間がすぎる／しかたがないから 先生だけが／勝手にしゃべって 生徒はうわのそら／それじゃあ ちっとも伸びては いけない／神様でさえ まちがう世の中／ましてこれから 人間になろうとしているぼくらが まちがえたって／なにがおかしい あたりまえじゃないか／うつむき うつむき／そうっと あげた手／はじめてあげた手／先生がさした／どきりと 胸が大きく鳴って／どっきどっきと 体が燃えて／立ったとたんに 忘れてしまった／なんだかぼそぼそ しゃべったけれども／なにを言ったかちんぷんかんぷん／私は ことりと すわってしまった／体がすうっと すずしくなって／ああ 言やあよかった こう言やあよかった／あとでいいこと浮かんでくるのに／それでいいのだ／いくどもいくども おんなじことをくりかえすうちに／それからだんだん どきりがやんで／言いたいことが 言えてくるのだ／はじめから うまいこと言えるはずないんだ／はじめから答えがあたるはずないんだ／なんどもなんども 言っているうちに／まちがうちに／言いたいことの 半分くらいは／どうやら こうやら 言えてくるのだ／そうして たまには答えもあたる／まちがいだらけの ぼくらの教室／おそれちゃいけない／わらちゃいけない／安心して手をあげろ／安心してまちがえや／まちがったって わらったり／ばかにしたり おこったり／そんなものは おりゃせん／まちがえたって だれかがよ／なおしてくれるし 教えてくれる／困ったときには 先生が／ない知恵しぼって 教えるで／そんな教室 作ろうやあ／おまえ へんだと言われたって／あんた ちがうと言われたって／そう思う だからしょうがない／だれかが かりにも わらったら／まちがうことが なぜわるい／まちがってること わかればよ／人が言おうが言うまいが／おらあ自分であらためる／わからなけりゃあ そのかわり／だれが言おうと こづこうと／おらあ根性まげねえだ／そんな教室作ろうや

図書室本紹介

中央公民館 図書室だより

Message Card

体はもちろん、心もいつも元気！でいたいですよね。今月は、日々の暮しの中で様々な問題・悩みに直面した時に、前向きな気持ちになれる本を紹介します。

生きていくあなたへ

著者：日野原重明、株式会社：幻冬舎

「自分のことはいちばんわからないから、一生かけて発見していくのです。」105歳の医師、日野原重明氏が死の直前まで語った希望と感謝の対話20時間超。「長年連れ添った夫に死なれ、毎日さびしくてしかたありません。早く忘れる方法はありますか？」「自分につらくあたる苦手な同僚がいます。自分のことを嫌いだという人とどうすればうまくつきあえるのでしょうか？」そんな問いに、日野原先生が答えてくれます。

がんばり屋さんのための、心の整理術

著者：井上裕之、株式会社：サンクチュアリ出版

がんばりすぎて心がパンクしそうな人に。やさしすぎて、心がへとへとに疲れてしまった人に。心の痛みをケアしてくれると評判のお医者さんが贈る、心の処方箋です。「しあわせ体質になるために。」「怒りやイライラを鎮める。」「大切な人の死を受けとめるために。」「後悔なく生きるために。」etc：読めばきっと、あなたの心が楽になる！そんな一冊です。

わたしから、ありがとう

原案：中島啓江、著者：河原まり子、株式会社：岩崎書店

クラスのいじめっ子に嫌がらせを受けていた『私』は、転校することになり、黙って去って行こうと考えていました。そんな『私』に母は、「お別れをするときは、誰もがありがとうの気持ちを伝えるものなの。」と諭します。転校当日、いよいよいじめっ子の番になったとき、自然と『私』の口から「ありがとう」という言葉が出てきて、いじめっ子からは「ごめんなさい」そして「ありがとう」の言葉が出てきたのでした。それから『私』の魔法の言葉は「ありがとう」。親子で、ぜひ読んでください。

リサイクルプラザつうしん

6月リサイクル体験受講者募集

申込先：クリーンパークファイブ
住　所：玉名郡長洲町大字名石浜４２番地１
☎　0968・78・4433

日	とき	講座名	講師名	募集人員	募集期間	準備するもの
21日(木)	午前9時30分～午後3時	古布で作る「布ぞうり」	土山千代子氏	10人	電話受付 1日(金)午前9時～18日(月)午後3時 希望者多数の場合の抽選日 20日(水)午前10時	①座布団 ②弁当 ③材料費500円 ※床に座って作業するため、ズボンの着用をお願いします。

受付方法　電話で受付をし、受講希望者が多い場合は抽選を行います。お気軽にお申込み下さい。